●やまもとちょう
山元町

防災を学び、防災を実践する拠点

●やまもとちょうぼうさいきょてん・やましたちいきこうりゅうせんたー（いっかいぼうさいじょうほうこーなー）

山元町防災拠点・山下地域交流センター（1階防災情報コーナー）

災害時には「町民の安全・安心を守る防災拠点」、平常時には「地域の交流・活力を創造するための交流拠点」として、震災後に建設されました。1階防災情報コーナーではさまざまな媒体を通し、津波災害の伝承や防災教育への活用、防災意識を高めることを目指しています。4カ所のモニターで震災にまつわる映像を常時上映しているほか、プロジェクションマッピングによる津波の浸水域・津波到達のシミュレーション、新市街地完成までの様子を説明する模型などを展示。パネルでも被害状況や復旧・復興の歩みにふれられており、テーマごとに展示や紹介を変えながら、興味を持続させる工夫をしています。施設は「津波防災まちづくり拠点」という側面もあり、自家発電設備や耐震性貯水槽、マンホールトイレ、非常用品備蓄庫を設置。教訓を生かした防災機能には、備えのヒントが詰まっています。

山元町の被害状況

最大震度	6強
浸水面積	24㎢
最大浸水高	13.52m
全壊	2,217棟
半壊	1,085棟
一部損壊	1,138棟
死者	701人
行方不明者	17人
負傷者	90人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

防災情報コーナーには、震災関連書籍を多数所蔵。発災10日後の3月21日に開局し、平成29年（2017）3月まで放送を続けた山元町臨時災害FM放送局「りんごラジオ」の放送の一部を、手回しラジオで聞ける

1階には、72㎡の広々とした屋内イベントホールも。日当たりのいいオープンな空間の2階図書コーナーや、山下駅の常磐線ホームが一望できる3階屋外テラスなどのスペースも利用できる

被災状況だけではなく、震災後にできた施設などもパネルで紹介。広域にわたる市街地の移転、常磐線の移設、土砂災害計画区域の展示には、模型を用いているので、広い視野で捉えられてわかりやすい

考えてみよう

Q1 「津波防災まちづくり拠点」としての役割を果たすため、非常用品備蓄庫には毛布のほか、非常食をローリングストックし、緊急時にはここから非常用品を持ち出し、町民に配布するといいます。「ローリングストック」とは、具体的にどのような備蓄方法でしょうか？

A1 普段から使っている物、食べている物を少し多めに買っておき、使った分、食べた分だけ新しく買い足していく方法。

展示 交流拠点

施設ガイド　車椅子OK

※平日9～17時、要予約

施設DATA

●やまもとちょうぼうさいきょてん・やましたちいきこうりゅうせんたー（いっかいぼうさいじょうほうこーなー）

山元町防災拠点・山下地域交流センター（1階防災情報コーナー）

☎0223-37-5592　MAP P115C4

住 山元町つばめの杜1-8
交 JR山下駅からすぐ
時 9時～21時30分
休 無休（臨時休館あり）
料 無料
P あり（大型バス：あり）